

北九州市旧古河鉱業若松ビル指定管理者検討会 会議録

1 開催日時 平成30年10月16日(火) 10:00~11:30

2 場 所 北九州市八幡西生涯学習総合センター 301会議室

3 出席者 (検討会構成員) 吉村構成員、江口構成員、武末構成員、
田口構成員、藤井構成員
(事務局) 市民文化スポーツ局市民活動推進課長、
市民活動推進係長、担当職員

4 会議内容

○ 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明

○ 構成員の互選により、座長を選出

○ 提案概要に関する応募団体からのプレゼンテーションの後、質疑応答

(構成員) 若戸大橋の無料化に向けての新たなPR、また、年々増加しているインバウンドに対するPRはどのように考えているか。

(応募団体) インバウンドに関しては、区の要請を受け、クルーズ船のクルーに若松を直に案内することがあり、商店街をはじめ、神社仏閣など中々行けないところに案内して喜ばれた。これからも続けていければと思う。橋の無料化については、イルミネーションやスタンプラリー、コンサート、記念クルーズなど多くのイベントが予定されている。それらに取り組みながら、次年度以降も続けていけるものを続けていきたいと思っている。

(構成員) 館長は実績もあり、館としてしっかりやられているが、後継の人材育成についてどのように考えているか。

(応募団体) ご指摘のとおり、後継者を育成する必要があると考えている。我々が主導して作った地域の歴史研究会が十分機能しており、そういったところから次世代の人材を育てていきたいと思う。

(構成員) とても見やすく素晴らしいホームページだが、もっと幅広くPRするために、どのようなことを考えているか。

(応募団体) まず色々なところに出向いているので、そこでのPRと、最近では、館内に市の観光資料を展示するなど、観光課と連携を深めており、橋の無料化にあわせたイベントでもうまくリンクして今後につなげていきたいと考えている。

(構成員) 館の広報紙だが、どこに配布しているのか。

(応募団体) 市民センターや区役所、地元企業、関係団体に配布している。もちろん、館内にも置いており、来館者にも差し上げている。

(構成員) 小中学校などへの配布は考えているか。

(応募団体) 内容的には大人が対象と考えている。ただ、過去には、若松区内の

全小学校 6 年生を対象に、バスで若松区内を巡るという教育委員会の事業があった。社会見学等で子どもたちが来館する場合は、子どもたちにも配布を行っている。

(構 成 員) 何年か経って色々と老朽化の問題が起こると思うが、そういった経費の確保のため、収入を増やす何か具体的な方策はあるか。

(応募団体) 収入を増やすには、館を利用していただくしかない。観光客がきてもゼロ収入。来年度から館の利用料金が上がるが、館を利用する方からの収入については、現状から大幅な増加は見込めない。軽微な工事は自分たちで全部行っているが、老朽化に伴う館の補修については、長期的にみて、行政にお願いせざるをえないと考えている。

(構 成 員) 来年、館が 100 周年ということで何かやるのか。

(応募団体) 現在の指定期間が今年度で終わるため、これまで具体的に動けなかったが構想はある。市の意向も聞きながら、また、ビルの名にも入っている古河鋳業にも協力をいただきながら、旧古河鋳業若松ビルの 100 年と同時に、若松の歴史、石炭の 100 年の歴史といった資料の展示をやりたい。他に、昔の若松の鳥瞰図があり、これをコンパクトにした古地図を作成中で、この地図を片手に現在の若松を巡るという事業に取り組むところである。

(構 成 員) 来館者は、若松区または市内外など、どの地域から来ているか。

(応募団体) 来館者は原則人数のみのカウントなので、正確には把握していないが、登録クラブのほとんどは若松区内の方である。音楽会には、遠賀、中間など周辺地域からも多く来られている。特に、洞海湾クルージングについては市外から申し込みが多い。現在、ミステリーツアーの訪問チェックポイントとなっており、関西・関東からのほか、海外は台湾、香港などからの観光客も来館されている。

(構 成 員) リピーターと新規利用者がいると思うが、新規はどのような方か。

(応募団体) 新規は音楽会での利用の方が多い。他の音楽会で来館されて、館の雰囲気、設備、ピアノの状況等が分かって、じゃあ私もやってみよう。そういった方々が増えている。ジャンルは様々で、クラシック、ポップス、ジャズ、ロックなど。

(構 成 員) クルーズ船の入港が増えてくると思うが、そういった方々の取り込みはどうなっているか。

(応募団体) 先ほどお話したクルーの方のご案内が今後もあると思っている。一般のお客様はすぐにバスに乗って若松から移動するため、若松に留まることが少ないようである。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。その後、構成員全員で意見交換。評価レベルを再確認した上で、検討会としての評価レベルを決定。

(構成員) 応募団体のここ 1、2 年の財政状況に少し不安がある。その点以外は非常に立派であり、問題はない。

- (構成員) 館長は知識も経験も大変あり、管理運営に安定感を感じる。他団体や行政と連携して、観光客の呼び込みや PR など、観光面を強化してほしい。また、後継者としてきちんとした人材を確保していただきたい。
- (構成員) 応募団体は10年間の指定管理の実績があり十分評価できる。観光客の受け皿を作るとともに、後継者育成に力を入れていただきたい。
- (構成員) 積極的に歴史・文化の発信をやっていることは評価できる。今後も歴史・文化の発信拠点としてさらに充実を図ってほしい。
- (構成員) 館長の熱意を大変感じる。色々な機関と連携を図り、文化の拠点として、若松の発展に誠心誠意努力されていると感じる。指定管理者として問題ない。あとは、館長の後継者の育成や施設の老朽化、収益など、単独での対応は難しいところがあるので、市のほうから協力・協働をより図っていく必要がある。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。